

佳作
(中学部門)

同志社中学校(京都府)

3年

郭かく
悠輝ゆうき

たくあんに喜べ

小学5年生の時の担任

小学5年生の時の最後の日、担任の先生がでかどと黒板に書いていた。こいつは何をいっとるんだ。そんなたくあんの話なんか、こんな日にするもんじゃないだろうと思った。でも、この言葉は深い意味を持っていた。たくあんといえは、ごはんがあつたら欲しくなる。その程度のものだ。でもそんなあつたらいいなぐらいの小さな幸せを見つけて生きていくと人生が何倍も楽しくなると言っていた。そして、その幸せの中に先生と出会ったことを入れてくれたらうれしいと言ってしめくくった。僕は今、先生の言ったことは間違いだと思っている。なぜなら、先生と出会い、この言葉を教えてもらったことは、とても大きな幸せだからだ。